

## 「さんべボランティアセミナー」

### 1 趣 旨

- ・ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする態度やボランティア精神を育む。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 第1回 平成28年4月16日(土)～17日(日)【1泊2日】  
第2回 平成28年5月13日(金)～15日(日)【2泊3日】
- (2) 参加者 第1回【ボランティアスタッフ編】16名 ※募集30名  
第2回 49名(大学生48人、社会人1名) ※募集60名  
ボランティアスタッフ16名 ※募集20名

### (3) 研修内容及び講師

#### 【第1回(ボランティアスタッフ編)】

1日目	午後	○実習①「心をつなぐアイスブレイク」 ○実習②「野外炊飯：ビーフカレーをつくろう！」 指導：交流の家職員
	夜	○さんべボランティアセミナーの話し合い①
2日目	午前	○実習③「竹を使ったバウムクーヘン作り」 指導：交流の家職員
	午後	○さんべボランティアセミナーの話し合い②

#### 【第2回】

1日目	夜	○講義「交流の家ってどんなところ?」「心をつなぐアイスブレイク」 (青少年教育施設の現状と運営) 指導：交流の家職員
2日目	午前	○講義・演習「救命救急講習」 講師：大田市消防職員
	午後	○プログラム体験①「竹を使ったバウムクーヘン作り」 指導：交流の家職員
3日目	夜	○プログラム体験②「キャンドルのつどい(先輩ボラ企画)」
	午前	○講義・演習「青少年教育の理解」「ボランティア活動の理解」 講師：独立行政法人国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 藤江 龍 氏
	午後	○講義・演習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解(先輩ボラ企画)」 ○振り返り・クロージング・ボランティア登録手続き

### 3 事業の内容

#### (1) 事業の特色

本事業は、当施設におけるボランティア養成の入門編として位置付けている。国立青少年教育振興機構の法人ボランティア養成共通カリキュラムとの対応を図り、今後当施設でボランティア活動を希望する者に対して、法人ボランティア登録を行う機会としている。

また、これまでに当施設で活動してきたボランティアが「先輩ボラ」として、事業運営の補助

に当たっていくという仕組みを継続して取り入れることにより、先輩が次の世代を育成していくことができるようにしている。

## (2) プログラムデザインと企画のポイント

これからボランティア活動を始めていこうとしている参加者が、気づきを出し合い、効果的に学びを深めていくことができるように、グループ単位での活動を多く設定した。また、アイスブレイクからクロージングまでの一連の活動を通して、他者とのつながりと「自分自身で考えること」の大切さに気付くことのできるような構成とした。

スタッフとして参加する先輩ボラにとっても学びの機会となるよう、スタッフ間での打ち合わせ・振り返りの時間を多く設定した。

## 4 成果と課題

### 《成果》

- ・ 準備に当たっては、最初にスタッフメンバー間で「キャンドルのつどい」担当と「ボランティア活動報告」担当の2グループに分かれてもらった。そして経験年数の多い先輩ボラが活動全体のまとめ役となったことで、メンバー間での役割分担も明確となり、これまでにない新鮮なアイデアが出され、参加者が主体的に話し合い活動を進めることができた。
- ・ 先輩ボラが、これからボランティア活動をスタートしていこうとしている後輩たちに、自分たちが取り組んできたことやこれまでの自身の経験の中で学んできたことを伝えていくということが、このボランティアセミナーの特色の1つであるので、各班に1名先輩ボラが入り、活動をサポートするとともに、グループ協議の際にはねらいに迫ることができるよう、先輩ボラがコーディネーターの役割を務め、運営の支援に当たった。
- ・ 地元の消防署の協力を得て、昨年度から大田市内で救命救急講習を受講することとなった。移動にかかる時間も少なく、充実した環境の下で研修を実施することができるため、参加者からも好評であった。
- ・ 「ボランティア活動報告」の進め方は、今年度先輩ボラのアイデアを取り入れて、所内の様々な場所を巡るグループワーク形式とした。好天にも恵まれて、参加者からは「楽しみながらボランティア活動について学ぶことができた。」「交流の家の施設を知る良い機会となった。」という肯定的な評価が多かった。

### 《課題》

- ・ 昨年度は近隣の高校からの参加があったが、今年度は高校の学校行事と重なってしまったため、参加がなかった。次年度は早めに各校の行事日程を確認し、ボランティアセミナーの日程を設定していく必要がある。
- ・ 例年「このボランティアセミナーに参加できないと、法人登録がしにくく、交流の家でのボランティア活動に参加しにくい。」という声があるため、今年度は秋に安全管理と青少年教育に関する講座を開催し、ボランティア活動に意欲のある青年に対応していきたい。

